

No. 2947 『NISA 口座は、株式暴落時の受け皿が一番？』

浜口準之助

NISA 口座。一定の条件のもとに、証券や投信の利益が非課税になる。これは投資家にとって、得になる制度なので、口座設定は躊躇せず、必ず行うべきである。問題はこの口座で、何に投資するかだ。

よく言われているのは、緩やかでも、右肩上がりの資産増加が期待できる投資信託。というのは、免税口座の NISA 口座が損勘定になってしまうのでは、洒落にもならないからである。NISA 口座は損益通算が出来ないし、短期的な株式投資には向かないとされている。非課税期間は、5 年間続く。以上から、年間 5% の投資収益の投信なら 5 年間で 25% 免税。さらに基準価額の上昇もあれば、なお可。このような投資信託に投資するのがおそらく、一般的に広く薦められている手法である。しかし……暴落のときのみ NISA 口座で投資を行う、そんな株式運用手法はどうだろうか。

株式市場というものは大体、年に 1 回ぐらい、世の中に何かが起こって、暴落する。これは株式投資家ならだれでも、皮膚感覚で理解していること。これが株式市場の、通常の景色。このような中、投資家の運用資金が 500 万円でも 1000 万円でも 2000 万円でも、100 万円だけは、NISA 口座に待機させておくのである。

暴落は最大の投資チャンス。投資家は頭ではこのことはよく理解しているが、言うは易く、これを実践できていく向きは少ない。どうしても、欲が出るからだ。であれば毎年、NISA 口座向けに 100 万円、暴落時に買い向かう投資資金として、禁欲的にプールしておくというのはいかがか。

株価が暴落したときに首尾よく購入できれば、その後の運用の展開はやさしい。また、「暴落した」と認識することも、事後的には容易である。株式が暴落後、年間で数十% 値戻しするのは、よくあること。その段階で戻り売りするも、よし。あるいはその後、その銘柄を長期保有に切り替え、5 年間持ちっぱなしでも分厚い含み益を形成するもよし。株価が上がるほど、節税効果が大きい。むしろこちらが、NISA の醍醐味ではなかろうか？

筆者のケースだが……リーマンショック後に、日野自動車・いすゞ・野村証券などに投資し、株価は倍加以上した。これは本当に上手いことだった事例で、実際の運用はこんな良いことばかりではない。しかし一部銘柄群で成功したのは事実。これら銘柄の利益に税金がかからないというのは、本当に魅力なのである。ご参考まで、筆者はこれら銘柄を年内に売り買いをして益出しを行うつもりだが、年間税率 10% でも、来年以降の 20% と比較すれば、はるかに美味しい。

一例だが、筆者はいすゞを 3 万株保有している。平均買い簿価は 262 円。本日の終値は 750 円。750 円 - 262 円 = 488 円。この 10% は 49 円。10% 税率低い状況で益出し・税支払することで、来年以降と比較し、49 円幅の利益が得になるのである。これがもし NISA 口座なら、97 円得になる勘定になる。このケースで 3 万株なら、291 万円が免税になるわけだ。

NISA 口座の醍醐味は、値幅を大きく取れれば取れるほど、増大する。筆者は NISA 口座を、株価暴落時の受け皿として使うつもりだ。前述の通り、大きく利食えたときの免税効果は、とてつもなく大きいからである。

浜口準之助（はまぐちじゅんのすけ）:

十数年に渡り、ファンドマネージャーとして株式運用に従事。大手信託銀行、投資顧問会社において、年金・公的資金・特金・ファントラの株式運用の経歴を持つ。「4 月高 10 月安アノマリー効果利用」を中心に、蓄積された様々な運用ノウハウを総動員、この上なく厳しい株式運用パフォーマンス競争を勝ち抜き、ファンドマネージャーとして長年に渡り生き残る。「醍醐味に満ちたライフワークとして、株式運用に勝るものなし」との基本観から、個人投資家にも実践的な株式投資手法の研究を続けている。著書に『黄金サイクルと農耕民族型投資戦略』（パンローリング）